

令和7年度特色ある学校づくり推進事業報告書

学校番号（45） 学校名 豊田市立若林西小学校

1 テーマ

緑と花がいっぱい 笑顔と喜びがあふれる若西っ子  
～地域とともに命や絆を育む活動を通して～

2 ねらい

- ・ 開校以来、「緑と花の豊かな学校」として、花を育て、緑を大切にする活動を継続している。緑や花など命あるものを、仲間と協力し、全校で育てることで、子どもたちの思いやりの心や生命を尊重する心を育む。
- ・ この活動を通して、地域を見つめ、地域に働きかけ、地域の方々との交流を深め、郷土や郷土の人を愛する心（温かい人間関係の構築）をもつ子どもたちの育成を目指している。
- ・ 樹木の剪定や伐採、施肥、花づくりや緑のカーテンづくりの事前準備には、時間と手間がかかる。担当教員が児童・教員の指導・助言に時間をかけられるよう校内整備員の力を借りて、作業を進めていく。

3 活動内容

4、5月・・・縦割り班づくり、秋花壇の播種、生活科などでの夏野菜の栽培
6、7月・・・秋花壇の移植、定植、緑のカーテンづくり、児童・子ども会花壇への花の苗のプレゼント、ブルーベリーの木の手入れ(草取り、施肥、灌水) と収穫
9、10月・・・春花壇播種（パンジー）、移植、グリーン大作戦、生活科などでの冬野菜の栽培
11、12月・・・春花壇の定植、児童・子ども会花壇への花の苗のプレゼント
1、2、3月・・・卒業生、新入生への花のプレゼント

- ・ **2年生生活科での、夏野菜（ピーマン、オクラ、ミニトマト）と冬野菜（大根）のプランター栽培**  
→ 地域学校共働本部を通して募集した学校ボランティアや保護者の協力のもと、プランターの土入れ準備や苗植え等を教えていただきながら一緒に活動した。
- ・ **全校児童、PTA保護者による花の栽培、花壇づくり（年2回）**  
→ 3年生総合的な学習の時間において、「花育」として、サルビアやマリーゴ

ールド、パンジーなどを種から育て、水やりなどの世話をを行った。また。緑化・園芸委員会の児童も黒ポットへの移植や水やりをおこなった。今年度は、春と秋のメイン花壇への定植を全校児童の手作業で行った。PTA 保護者にも花の幡種、黒ポットへの移植、花壇への定植、休日の水やりなどの協力をいただいた。

・ **4年生の緑のカーテンを利用したツルレイシ（ゴーヤ）栽培**

→ 4年生の理科の学習として、ゴーヤを種から育て、緑のカーテンのある室内の気温の涼しさを調べる環境学習を行った。地域学校協働本部のボランティアに、ネットの張り直しをしていただいたり、ツルレイシの栽培の助言をしていただいたりした。

・ **特別支援学級の児童による、ブルーベリー栽培、収穫**

→ ブルーベリー畑の草取りや水やりなどの世話をし、収穫した実を保護者と一緒にジャムに調理し、味わった。

・ **縦割り班活動（異年齢交流）で、学校の敷地内にある樹木に親しむ「グリーン大作戦」の開催**

→ 緑化・園芸委員の児童が、校地ある樹木の調べ学習をし、クイズなどで全校児童に紹介をした。委員会の児童を対象に、樹木について県内の農園などの専門家から学ぶ機会を設けた。

・ **校内整備員による花壇の土壌づくり、樹木の剪定、施肥**

#### 4 成果と課題

- ・ 仲間と協力し、緑や花など命あるものを育てる活動を継続することで、子どもたちの自主性や他者を思いやる心、生命を尊重する心を一層育むことができた。
- ・ 年間を通して、PTAの方々や地域の方々に花や花壇づくり、生活科の野菜栽培に携わっていただいた。交流を通して、児童が地域の人々に支えられていることを実感するとともに、地域と学校が一体となり、緑や花が豊かな若林西小学校に愛着と誇りをもち続け、豊かな環境を守ることができた。

#### 【児童の感想と成果】

○ **野菜をプランターで育てた2年生児童**

- ・ 朝、学校に来たらすぐに水をたくさん上げることががんばりました。ポテトサラダに作ったミニトマトを入れたらおいしかったです。
- ・ 大根の様子を見ながら、毎日水やりをしました。頑張って育てたから大きくなってうれしかったです。でも大きくなならない大根もあって不思議でした。大根を料理するのも楽しかったし、少し苦かったけどおいしかったです。

2年生の夏・冬野菜は、1人1つのプランターで栽培をしたことで、児童は葉や実の生長の様子を細かく観察したり、責任をもって世話をしたりすることができた。収穫した野菜を家庭や学校で調理し、野菜の味をじっくり味わうことができた

#### ○ 種まきをし、花を育てた3年生児童

- ・ たねがとても小さくて、間違えて2粒入れないようにしました。毎日の水やりを忘れないように、頑張りました。
- ・ 毎日、クラスみんなで学習用タブレットの teams で「花につき」をつけました。芽がでて、どんどん大きくなってうれしいです。これからも水やりを忘れずにやって、きれいな花を咲かせたいです。

種から生育させる大変さを味わいながらも、毎日花の様子を見守り、世話をするなど、大切に花を育てようとする心情を育むことができた。

#### ○ 花壇に定植をした児童

- ・ 初めて花の苗をみたとき、思ったより大きく育っていると思いました。葉や茎を大事にさわって、「大きくなあれ」という気持ちで植えました。花の苗を植えることは楽しかったです。(1年生)
- ・ メイン花壇に自分が植えた花が、だんだん大きくなってると、思えてよかったです。(3年生)

今年度は全校児童が一人一株ずつ、花壇への定植を行ったことで、毎日花壇の前を通る中で児童自身が植えた花の生長を見守ることができ、花壇への愛着、花壇で学校を美しくしようとする心情を育むことができた。

#### ○ ゴーヤを緑のネットで育てた4年生児童

- ・ ゴーヤがネットに絡みながら上に伸びていくことや、葉っぱの数、実の色が変わっていくことを観察して学びました。緑のカーテンは日陰になって涼しかったです。

4年生児童は、緑のネットに伸びやかに生長するツルレイシの様子を楽しみながら観察したり、世話をしたりする様子が見られた。

#### ○ その他

- ・ 栽培した花苗や野菜などは、児童が家に持って帰り、家族で自然のよさを味わう一助となった。また、ある子ども会では配付した花苗で、地域の広場に子ども会役員がデザインした花壇をつくり世話をするなど、自主的に地域の環境美化に努めていただいた。
- ・ 校内整備員が、木々への追肥や寒肥、樹木の剪定や除草等の児童や教員では困難な作業を行い、校内の緑化活動を促進することができた。
- ・ 学校保護者アンケートでは、「特色ある学校づくり推進事業が、児童の教育活動に効果的であるとともに、事業の計画や成果が広く理解されているか」という項目において、「とてもよい」「まあまあよい」と回答した保護者の割

合が今年度は 89%と、事業への理解を得ている。

- ・ 本校敷地内には、たくさんの樹木があり、整備に時間がかかる。予算額により、校内整備員の作業時間とコンテナの注文数が限られ、手が十分に行き届かない。また、高所の樹木剪定や、スズメバチの出没、また猛暑など、危険な中での作業になることもあった。
- ・ 物価高により、用土代、種代等の値上がりや内容量の減りがあり、予算内で事業を行うことが厳しくなっている。

## 5 保護者・地域への情報発信の取組実績

- ・ 特色ある学校づくり推進事業はホームページへ掲載している。また、この事業に関わる活動は、常に学校ホームページに掲載をし、保護者や地域へ発信している。
- ・ 授業参観で特色ある学校づくり推進事業に関わる公開授業を行った。(3年)
- ・ 授業参観時に、校舎の4階からメイン花壇が鑑賞できるよう、教室を開放した。